俳諧集

上

武[illegible]中興の[illegible]祖乃[illegible]
[illegible]を[illegible]里に[illegible]を[illegible]
百[illegible]十四の[illegible]居未[illegible]
[illegible]作[illegible]の[illegible]
四[illegible]
[illegible]一[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

声のきく蝉冢集と題せらるゝも
賤年集とあれたるの今せむなるは
さもあらむて風雅のまことを
わすれぬ也

天保十二歳星次辛丑仲夏

蝉塚集 上

四月十七日於吉祥精舎興行
祖翁百五十回忌追福俳諧之連歌

野ゝ花ぬけしぬけがらに蝉の声　翁
古くなりてあつくかけ行も夜　東之
見知あふ人足揃をまつ人某寺　風朗
風きり鐘のしなしなれとも一せぬ　寄三

工会よりの為絵下地の乳こと用　遠閑
新潟の解乃ふと生ずり　石渡
八方人見の新宮社市ふと　可考
特多の私すよ見ぬ家ふ　足水
さ平新を鎖に当社軍ふの見　宮外
然社多ふむ乃ふ残新ふ　義子
時ふ信ふ見ん少新ふふ　知玄
ふふる　和石ふ士男　仲煙

社掛のいふ〳〵意き用社のけ　石尾
特ふ社のれし雑ふ社相寺式　酒濤
ふふ所ふ知社ふふ新ふ社未　毛居
出宝ふ展の的ける華見袋　石牙
歳ひふ花社実生を仕玄置　沙来
自西ふ多の典る山源　見賜
遠ふ式仕御社産の姿むふ　西馬
振栄のふ〳〵風社ふふ　園義

一順

始乃梅とみなさんれゆくあれそ　箱

月の紅葉を折りのこす　蓬　南こ

霞ふるひと筋つくる青柳　斜雪

眺をまつて名物乃鉢ある　遠渕

義人の碑　おもの名誉り　寄三

雪ふみ重ねてもけふ山さとの雪　雪

雪ふる郷ゆく春の初雪　南

春ふるゆゑも花ちくけふ常　三

梅文乃香ふ春とふ人ふ春　渕

点ともけてふらう菊花　南

春ふ人家ふ春ふ家ふ　雪

聖人ふ世ふ記ふ　渕

洗ふ春ふ春ふ春の振舞　三

牧生舎主人小菊氏と篠
見事なる花瓶の花
活人うゑぬ人物
花の前雪さうしてまたの色
枯葉交りの姿菊
京都乃面白き枝岸迫
小型色紙の書
拾ひ集めたる花の姿あけ

空
菊
三
淵
菊
空
淵
三

ぶんと生の色うつくしき姿
いつとなく落葉枯れ病ふ
柔術教授儀式ゆるしかり
四方吉日嵐も起る雲の色
蓼蓮の衝を出て人足
大丈夫と思ふ物也
吹乃中に竈馬生物
病仲義祖父の陰の月うつ

空
菊
三
淵
菊
空
淵
三

盍ゝ寒ゝと佳き和ゝ哥　雪

無御為社頭より帰るゝ途中

南

温泉よりゝの西き方降る

之

ゝ度々拍のゝ清かれの夢　潤

帰るゝ中社頭ゝ戻れ来

南

浦の表際の寒ゝ

雪

雑の帰ゝ中の

梶　潤

霊祖の百年回社壇長を

年々ゝ農自重れゝ

忠ゝ長社也の一ゝの月社豆　風郎

研前手向

牙ゝ也平ゝ嶋蝉時雨　遠潤

湖ゝ清ゝ也ゝ清ゝ

撫ゝ風乃ゝ水堀の茶　義了

使ゝ苔社也　五波

堀をもとめて夜学の門をたゝく　国茂

枝を帰性はなきぬを向かな　旦睡

蘇の実は露を真中に祝う郎　耕雲

白芹を時雨のもとに伝きてり　寄之

郭公堀の掃除も夜のつとめ　南子

齋藤兩君を送る箱根の山をこゆ

かりけりを仰ぎ見るみすゝの秋く

ゝ郎をたゝきのみぬ山びと

ゝ道のみを知るをいとゝくもつと

見まつりてこゝに箱根の山なるもの

あるとせあるをいつゝ勢の意ぶ者

我おもひ知るとも見ぬ者を

ゝけてゝ我法の勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

阿蘭梁歌海

[illegible]

[illegible]

元日[illegible]眉[illegible]の部　風調

[illegible]　[illegible]人（ヒトツ）と

大日経曰

八葉蓮漏出寶殿門

[illegible]　梢（ハツカシ）　[illegible]

新毎年[illegible]　新（シナ）　未白

[illegible]と[illegible]物うらん　エト　二柳
汐[illegible]物[illegible]　十二ハ　其山
[illegible]　エト　耕雲女
[illegible]の[illegible]　坎窠
[illegible]井戸　蓋　梅室
[illegible]　ヒトコ　蕉琴

未[illegible]年を迎へて
蕉園を先出[illegible]　[illegible]の味　遠渊

仕舞[illegible]と[illegible]　ハサミ　正价
引[illegible]　[illegible]　永林
蓮葉[illegible]　蒼乱
出[illegible]蓮葉[illegible]　上ッケ　素堂
[illegible]鋼[illegible]　アハ　庶吏
稲葉[illegible]一穂の[illegible]　エト　松什
[illegible]　京　[illegible]
[illegible]の[illegible]　スルカ　[illegible]

関もなき何国ぞ恵方への郷　エト　荷了

衣装に持よろよ在二日の雛　知雪

黒帯のつのむすめ添ふ二はつ春　ヲハリ　蓮阿

福引やしらぬ世の京みやげ　上ツケ　西馬

花の羽子や除夜の引る新法師　ムサシ　少雨女

二三日しては閑に安戦暦への郷　カヽ　年緒

新玉の水くし何玉に月叔礼　上ツケ　萱堂

篝の出る籬多し三ヶ日　ミノ　柳條

乾坤

霄寒に出来て露けく朧月の礼　サツマ　山眉

人乃見ぬ日よりたのの峰の日の影　ムサシ　汲牢

引汐のあとへ持出たるとかき　エト　旬光

藪入を梅のしるしや翁萬　イヨハ　佛兄

藪入のいとまね出窓の燈りの影　ムサシ　五渡

座に渡さうしろんまきた娘客　エチコ　大坦

廣物にたまらぬ園炉裏火来の雪　淡叟

[illegible] 可大

[illegible] 饌物

[illegible] エト 菊枝

[illegible] 真宜

[illegible] 美窠

境屏峠にて

[illegible] 秋風

[illegible] 蔭ろ

[illegible] 上ツケ 梅守

[illegible] エト 面影

[illegible] ムサシ 麦扇

[illegible] エト 麦女

[illegible]

[illegible] 風朗

[illegible] 遠渕

拾うる郡山のうけはる所 ヲハリ 沙弥
京極殿のうるわしき 破屋 垣 鈴枝女
陽炎うちもたのめたる所の事 ムサシ 文殊
姫社はたちからの人 言歌 の郎 カヽ 柏崎
出雲うら 姫を 宮 ゆく 行 れ ヒクカ 駝岳
下野の 宮 女 歌人 歌 肩 重ね 倉開
をうるうれ 宮 ゆく 月 ヽ 祖つ
書 所 歌 や 梅 と 以 姫の 見る ナクセン 宇迦

合点 たるはいちらに 二日 廣 イヨ 菊園女
山をやく 山もの 山の 雲 サヌキ 茂惟
宵やうは うの 鏡 堅山 の郎 采水
山鏡 の 唐の 鏡 山 屋 加 茶 サカし 宣項
行 の 歌 は ひ け り 歌 海 エト 薩摩
さくと 打 ち ち け ぬ 柳 の 郎 一具
宮 ち 打 を ゆる 鉾 の 釣 場 れ ヒタチ 歌 茶
大勢 て さ い て 人 る 破 生 上サ 峰 半

[illegible] 風外
[illegible] エト 蔦宇
出代の新妻 [illegible] ケカミ 槻豊
出代や神樹義意常 エト 茶静
野辺を [illegible] 出 [illegible] 男 [illegible] 耕重女
毒みを [illegible]
[illegible] 流芝
板 [illegible] 其の水 其山

[illegible] エト 若淋
[illegible] 雁嶺
[illegible] エチコ 茶山
[illegible] エト 台子
[illegible] 吟二
[illegible] ツケ 奥水
[illegible] ムサシ 為存
[illegible] 鬼雄

植物

一本も知らぬ小松社のひうれ（エト）秀直

松引き侍るつゝみ乃ちのゝかな（フンコ）徐方

小松引えさゝ岩社おもゝけ（チクコ）文老

旅人を蓄ついてゝ郁しけゝ（テハ）南風

以樽と加まとゝ社宮のなゝ赤れ（サヌキ）今光

梅ゝ〻分堂したる義葉うゝ（ムサシ）園義

新ゝいかゝいつの世ゝゝを佛の庭（アフミ）宮白

ゝゝ舞まけゝ笑そうめ社年（ナニハ）永昭

大津画とかゝたまものや梅の也　意ゝ

梅ゝゝ人生ゝ川のむゝゝ梅社花（エト）梅笠

さけゝ基ゝ基ゝ新けゝ梅のはな（ヨウ）晋夫

梅咲ゝゝ年　社宮ゝ郁ゝゝ　耕雲女

をゝゝ舞ゝ社つゝゝ入ゝ社れれ　風朔

二年基を折ゝ社みゝ柳ゝ（エト）惟草

ゝゝ柳ゝゝ二階あり川むゝ（ヤマシロ）丈翠

池あり[illegible]や蛙[illegible]ムサシ　葛國

年[illegible]やの鳴　南ゝ

日あり[illegible]花のちり[illegible]エト　左尓

芹[illegible]の実[illegible]おつ[illegible]、　月芳

[illegible]や[illegible]イヨ　山蔭

海[illegible]カヒ　歌哉

帚[illegible]エト　月古

仲[illegible]上ツケ　可考

[illegible]エト　墻菊

[illegible]アキ　雪頂

人の[illegible]上フケ　鶏冠

[illegible]ミカハ　水竹

[illegible]　梅室

[illegible]エト　水壺

西行讃

[illegible]　卓池

序景を深きに花の春ぬれ　沙酌

人形の付けのうち春雨と　十二八　林蔭

きれ雲に人を思ふ春の月　ムハシ　春我

形見にうれしき世の笛吹くうれ　ヒタチ　赤斗

ちぬ世と鍬の生れぬる小深の郷　岱年

ゆめうつつ今日は世の陰　寥之

巻山

人形ちる洗ふ雲の春の雨　梅室

知恵あり光りなる柳桜の影　ヒタチ　唐々女

海棠　恋つゝいとる郷　宗　深長

かすみの紅きる美人ちるまゝ

名残ひと稽古あり

梅ちるに花寒すかすみけり　遠湖

紅とうすき紅ちるかすみ　内摩

身を捨てと思ふ春の雨　ムサシ　涼松

主よれ深きもれる幸美　エト　魯心

[illegible]カイコシとうゝ廣野を
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]旅[illegible]

一枝も[illegible]馬[illegible]れ　南ミ

生[illegible]

[illegible]け[illegible]夢[illegible]　碩布

[illegible]の[illegible]小[illegible]れ　ヒセン　眉山

夢[illegible]と[illegible]　十二八　[illegible]

[illegible]結ぶ[illegible]　チクコ　馬胡

[illegible]　ヨバリ　石后

[illegible]　イセ　一禹

[illegible]　豊山

[illegible]　蔡牝

[illegible]の[illegible]　ナカサキ　甫田

[illegible]　京池

[illegible]　エト　丁知

蒼海の鯨屏風うん　上ハケ　和言

水魚氏神を祭りて軒つ角む　義子

子刀突氏倉庫のひろ角分のひわり　ムサシ　古魯

弟船の波を切りて越屏風　サカミ　玄宇

夜食

上膳を送りて子孫の衣この那　上ハケ　聖院

壺屋のうちの海苔やり角む　寿三

草餅を買うて那る出ひこの家　エト　樂之

神祭

響灘の船より出て居の那　丁歩

月の年氏寄出を知りて色　南々

角子氏船子へ船を漕ん俗　西馬

涅槃会氏草庵年を祭角の義　義子

公事訴子

芦原の部子が表笑この那　寿三

杖持氏脇子子原氏縣　呂　国義

[illegible]の家[illegible]の[illegible]　西馬

[illegible]一日[illegible]の[illegible]上　[illegible]淵

夏之部

乾坤

[illegible]月の[illegible]（シナノ）月か

[illegible]月かな　寒正

[illegible]の[illegible]し　一甚

二[illegible]の[illegible]（ムサシ）　玉芝

[illegible]義仲[illegible]組[illegible]の[illegible]十四を

[illegible]の[illegible]

[illegible]句[illegible]れた

十[illegible]の[illegible]

[illegible]扇古郷と書て[illegible]　風朔

[illegible]扇[illegible]

ちらちらと思ひてちらちら扇かな　虚白

あつき日さへちらちらとさは椽廻り　和佛

出てきみれは度もちらぬ故帽子　圭府

鶯年頭く故帳子届かけり　楓下

豐時の幽吉屋や故届かの内と外　壺天

川風や佛ら出りて故屋に薫る、　氷狐

捨ものをかりてあふぐる日傘かな、　菜居

捨子のうしろに鳴てとらや日傘　其行

手はつ連て座人に連て麦の秋　蓮宇

二三寸あけてある戸や麦秋　玄子

産神の神楽や聞ゆ鐺年かな　蔦了

茶譯りりも出て取扱ひ堀この手　未足

五月雨一あれ暮てまれなけり　仙翅

人去るを待て行くや五月晴　首夢

たみてれの為や人して知りの花　守墨

六月や飯鮓喜子　夕茉師　逸淵

[illegible]の[illegible]　エシレウ　旦松
[illegible]時[illegible]面の言　ムサシ　分柳
[illegible]伊[illegible]のうら　サツマ　波文
[illegible]　上ツケ　仲煙
[illegible]の[illegible]　エト　松嶺
[illegible]の[illegible]　ヲク　鬼孫
[illegible]納源[illegible]、心河

芋巻　秋世

[illegible]　面馬
[illegible]　上ツケ　百牙

初恋

抱籠のまゝ[illegible]　逸淵

別恋

河[illegible]　アハ　楽菓
宵[illegible]　エト　英文丸
月[illegible]、　附巻

雲ゐなる清水ながれ（ムサシ）　美鶴

手洗ひの水　仙の水や出用平　里之

植物

一ト本牡丹を清水に寄せ載せる　風湖

手を引きながら百ト杜若　蒼虫

鄙ながらも物なつかしや抱像（エト）

拔水

けしの中の兵隊寄せ鎧武者　京　梅通

岸まくしかぶる菖蒲（エト）　蒙古

岸の新芽　耕雲安

沸き出る水　五渡

雅き人は俗を離れて

うぶすなの清水や梅の実　梅宝

苔の中やうの見ゆる水根（上ツケ）　沙来

お逢うつい

夏の手水打蜂のいうかな　京池

[illegible]　下ツサ　[illegible]女

[illegible]の降るみるまで　四方の笠　梅室

[illegible]蓮の浮葉哉　タンハ　月樵

[illegible]蓮の花　エト　渓斎

二階の[illegible]人の[illegible]蓮[illegible]　ムサレ　旦睡

夜[illegible]の[illegible]蘭の[illegible]　碩布

生涯

浮[illegible]十三絃の[illegible]ひよみ　四山

霧を生[illegible]人の[illegible]　蕉仇

梢[illegible]　卓池

大[illegible]の[illegible]　エト　雀翁

[illegible]那き[illegible]八[illegible]　雲三

麦畑を[illegible]　渡史

庭先や時[illegible]　ヨハリ　烏津

一粒の[illegible]浮巣の船　エト　朶丈

浮巣とあつ[illegible]　ムサレ　再来

貝ふる里を屋尺にあるの形　岩外
賞ぶ似ぬむ　まるうけ　アハ　風樹
地を家てつまむるうれ賞の那　ヒセン　鯨く
岩近をして取所をほるかホ　オヲ　佛孫

情義士

板所中を板のむ　ある人の板掘れ　逸淵
等てつ出た板の底入戸口かを　イセ　桐一
引う新納を板の堂川　拉絵を　エト　杜有

板をつ板をうの　市角　ハサミ
り蜂を釣を板　弟
縄打て　板をつ出る者をけり　全
川ひて　為回を　書を居をけを　京　杜蓼
書塗ひ　ムサシ　西萩
併所　裁を　イヨ　鷺居
枝のを　スルカ　速山
踏をけて　水を　京池

衣食

更衣勢よりて面の晴れけり　エト　速流

宿りかりなれとかりそめ立居哉　西整

注連張て門を無言の築撰かな　ムサシ　陣山

御糧とかきて智恵あれ嫁の那　護物

門守を結ぶ程よ秋の夕　イヨ　柴人

奥社見へそりよ勢てゆのちまれかな　耕雲

意

能活て一秋無さん妹こうもと　西馬

遠寄て半和れけり泣ハリハ　耕雲

雅子や鏡日の光りて見ムサシ　竹山

神祭

潮佛のりまはりて熱夫こうれ　蓊子

加至りめ社子まりてこ活屋　西整

日光山中

花指の御社たの屋を人けり、　蔦山

人とんの水掬まく我こそ　エト　移水
大海とあらそ雲時ゝ紅葉れ　上ツケ　遠芙

ひろ拾事

ゑ書と書る学えて書ゝ　シナノ美人
郷うへていゝ武江社蕃うる　きゝ　時之雪
雷社陳の松ゝり　因果姫　遠渕